

An aerial photograph of a city, likely in Japan, showing a dense urban area with a river winding through it. In the background, there are rolling green mountains under a blue sky with scattered white clouds. The text is overlaid on the top half of the image.

柳津学区 地域まちづくり計画

2016年（平成28年）
柳津学区まちづくり推進委員会

ごあいさつ

日頃から学区の協働のまちづくり推進事業にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

柳津学区まちづくり推進委員会は、2006年度（平成18年度）から協働のまちづくり推進事業を開始して10年が経過しました。

この間、行政から補助金の交付を受け、キーワードモデル事業として、教育、環境、福祉、活力、安心・安全をキーワードとして年度的に取り組み、一定の成果をみることができました。

2012年度（平成24年度）に提唱された「第二次福山市協働のまちづくり行動計画」では、これまでに実施してきたまちづくり推進事業を学区の目標や将来像として「学区まちづくり計画」にまとめ、2016年度（平成28年度）中の策定をめざしています。

2014年（平成26年）7月1日に「まちづくり計画策定委員会」の設置に向けて研修会を実施し、昨年8月に町民の皆さんの声を聞くため「まちづくりアンケート調査」を実施しました。その回答結果やこれまでの活動実態を委員会でまとめ「柳津学区まちづくり計画」として策定しました。

今後は策定した「まちづくり計画」をもとに、住み続けたい町をめざし、地域の皆様と共に協働のまちづくり事業を推進してまいりますので、今後とも皆様のご理解、ご協力、積極的な参加をお願いいたします。

2016年（平成28年）12月
柳津学区まちづくり推進委員会
委員長 津田光之

財産区・自治会の役員による御蔭山（竜王山）の草刈を毎年春と秋の2回実施している。



目 次

1 はじめに

- (1) 「協働のまちづくり」の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 計画策定の背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 計画策定の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 意識調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 柳津学区の現状と課題

- (1) 人口と高齢化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) 町の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) アンケート調査からみる町の課題と要望・・・・・・・・・・ 3

3 まちづくりの基本方針

- (1) まちづくりの現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) アンケート調査からみるまちづくりの課題・・・・・・・・・・ 4
- (3) まちづくりの基本方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

4 まちづくり活動の具体的な施策

- (1) 計画策定の総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (2) まちづくり推進委員会の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (3) 分野別まちづくり計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (4) 具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

5 まちづくり計画の実施体制

- (1) 実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (2) 実施方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

資料編

1 まちづくりアンケート実施方法

- (1) 事前アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (2) 2回目アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (3) アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

2 計画策定の経緯

- (1) 策定委員会日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- (2) 策定委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

1 はじめに

(1) 「協働のまちづくり」の経過

自分たちの住む地域のめざすべき将来像や現状、地域独自の課題をみんなで出し合い、将来の道筋や解決方法を住民自ら取りまとめ、行政と協力・連携して取り組むことを「協働」といい、行政主導によるまちづくりではなく、協働によって進めるまちづくりを「協働のまちづくり」といいます。

柳津学区では、協働のまちづくりの推進組織として「柳津学区まちづくり推進委員会」（以下、「まちづくり推進委員会」という。）を2006年（平成18年）4月に設置し、今日まで地域の課題に取り組むとともに、諸行事の開催により絆づくりに取り組んでいます。

(2) 計画策定の背景

「柳津学区地域まちづくり計画」（以下、「まちづくり計画」という。）は、「町民一人ひとりが『まちづくりの主役』として協力し合い、いきいきと活躍できる町の実現をめざす」こととして、「まちづくり計画」を策定したものです。

(3) 計画策定の体制

計画策定は、まちづくり推進委員会が担うものであるが、策定に至る調査・検討などについては、「柳津学区まちづくり計画策定委員会」（以下、「策定委員会」という。）を設置し取り組みました。また、策定委員会へ提案する資料作りなどを担うために策定小委員会を設置しました。

(4) 意識調査

柳津学区では独自の取り組みとして、「まちづくりアンケート」に取り上げてほしい内容を募集しました。

事前アンケートに基づき作成した「柳津学区まちづくり計画アンケート」を、同居世帯数が多いことを考慮し全世帯数の1.7倍程度配布し2回目アンケートを実施しました。

そして、学区の現状と課題、意見要望を整理していきました。

2 柳津学区の現状と課題

(1) 人口と高齢化

- 柳津学区の最近5か年の人口は減少しているが、世帯数は微増している。

(単位：人，世帯%)

年 月 日	人 口	指 数	世帯数	指 数
2012 (H24) 年3月31日	3,101	100.0	1,217	100.0
2013 (H25) 年3月31日	3,102	100.0	1,241	102.0
2014 (H26) 年3月31日	3,046	98.2	1,217	100.0
2015 (H27) 年3月31日	3,054	98.5	1,228	100.9
2016 (H28) 年3月31日	2,996	96.6	1,224	100.6

※ 人口世帯数は、福山市の住民基本台帳数値である。

※ 指数は2012年3月31日の数値を100%としたときの増減を示している。

- 高齢化率の動向

柳津学区の最近5か年の高齢者数は、福山市全体と同様に年々増加するとともに、平均して5ポイント程度高い状況となっている。

また、高齢化率が21%以上になると超高齢化社会であるといわれているが、柳津学区の高齢化率は、すでにこれを大きく上回っている。

(単位：人%)

年 月 日	柳津学区		福山市全体	
	高齢者	高齢化率	高齢者	高齢化率
2012 (H24) 年3月31日	897	28.9	108,767	23.4
2013 (H25) 年3月31日	911	29.4	113,874	24.1
2014 (H26) 年3月31日	922	30.3	118,053	25.0
2015 (H27) 年3月31日	946	31.0	121,913	25.9
2016 (H28) 年3月31日	945	31.5	125,335	26.6

※ 高齢化率とは、全年齢の合計人口に対する65歳以上の高齢者人口の割合をいう。

(2) 町の現状

柳津町は、福山市の西部松永駅から南へ位置して松永湾に面しており、県道鞆松永線が東西に横断している。

自然環境としては、山河・田畑・池・松永湾に面しており大変恵まれた地域である。

2016年度は、福山市と合併して50周年の記念の年となる。

公共の施設

学区内の公共施設は次のとおりである。

- 福山市立柳津保育所
- 福山市立柳津小学校
- 福山市柳津公民館

- ・ 慶応浜埋立地
- ・ 松永浄化センター
- ・ 福山市立柳津ふれあいプラザ
- ・ 福山西警察署松永南交番

自治会（町内会）加入率

学区内には5自治会（町内会）があり、加入率は61.4%で福山市全体の加入率を2.1ポイント下回っている。

区 分	年 月 日	世帯数	自治会（町内会） 加入世帯数	自治会（町内会） 加入率
柳津学区	2016（H28）年	1,224	752	61.4
福山市全体	3月31日	202,995	128,846	63.5

（3） アンケート調査からみる町の課題と要望

アンケート調査の結果、町の課題と要望に関する事項が多くあった中で、主なものを記載する。

① 社会基盤の整備に関する事項

- ・ 県道鞆松永線の整備
新池五差路付近を中心とした慢性的な交通渋滞の解消と歩道の整備
- ・ 生活道路の整備
町内の生活道路の多くは幅員が狭く、歩行者が安全に通行できる歩道がなく通学道路の安全確保が望まれる。
- ・ 河川の整備
新川は、長年整備されておらず本年6月の集中豪雨による災害復旧工事も行われていないため自然災害の未然防止と河川環境の整備が望まれる。

② 公共施設の整備に関する事項

- ・ 慶応浜・大土手の有効活用として、スポーツも楽しめる遊歩道を整備した公園緑地化を求める意見が多いため、災害時の避難場所を兼ねた公園整備が望まれる。
- ・ 現在設置の防災無線では、緊急時の音声がかく聞こえない地域が多く、増設が望まれる。

3 まちづくりの基本方針

（1） まちづくりの現状

柳津学区の各種28団体が構成する「まちづくり推進委員会」が行っている主な事業は、町民体育大会・精霊盆踊り大会・敬老会・文化祭・防災訓練・胴鉦おどり・神楽などで、町民との絆を深め文化・伝統を継承する取り組みを行っている。

(2) アンケート調査からみるまちづくりの課題

アンケート調査からみるまちづくりの課題の主なものは次のとおりである。

(教育)

子ども教育への支援

子ども教育への支援としては、「いじめやけんか防止へ目配りをする。」と「地域ぐるみで子どもの育成」があわせて40.5%と高い割合となっており、子どもたちに関心を持ってかかわることが大切である。地域の大人が日ごろから子どもたちを視野に入れて見守ることが大切である。

(歴史・文化)

歴史・伝統芸能の保存, 継承

柳津町の長い歴史の中で、子どもたちへの対応については「子どもに歴史や由来を教える。」「神楽や胴鉦おどり・はねこ等の取り組みと保存」があわせて77.5%と非常に高い割合であった。これは、歴史や伝統芸能の継承を通じて子どもたちに地元へ愛着と誇りを持たすことの大切さを表していると思われる。

柳津小学校6年生による敬老会・文化祭での胴鉦おどり・神楽の発表。



(環境)

① 町の美化

海岸沿いや川土手に家庭ごみや大型ごみの不法投棄が多く見受けられる。

特に多くの住民が感じているのが、「散歩時におけるペットの糞処理」である。

また、行事後の会場周辺のタバコの吸い殻やごみのポイ捨ても住民にとって大きなストレスになっている。

これらを防止し減少させるためには清掃活動と併せて「不法投棄をしない・させない」意志を持つことが必要となる。

② 河川環境

「河川へのゴミの投棄を防止」「河川への家庭や工場などの汚水排水の防止」「松永湾の水質悪化対策」を求める意見が併せて79.7%と高く河川環境の改善に向けての関心の高さが目立つ。

(福祉)

① 就学前の子育て支援

就学前の子どもがいる親にとって、あったらいいなと思う支援事業については、「地域内施設で一時預かり支援」が必要と答えた割合は31.1%と3割を超え、「親子が気軽に集まれるサロンの設置」が必要と答えた割合は24.8%であった。

これは、買い物や病院への通院時などに幼児を一時預かってほしいとの要望の表れと思われる。

また、気軽に育児に関する情報交換ができ、育児の不安を解消したい思いの表れである。

② 高齢者の現状と将来、高齢者支援

高齢者の日常生活における課題として「病気・負傷時の不安」が24.8%、「外出するのが大変」が17.7%であった。

また、高齢者の将来についての問いには、「介護施設を利用する。」38.1%が圧倒的に多く「まだわからない。」の回答は34.0%であった。

高齢者にとって地域にどんな事業があれば良いかの問いには、「医療機関や買い物等に送迎サービスが必要」の回答が37.6%、「高齢者への安否確認を兼ねた訪問」の希望が26.0%と高い割合であった。

これらは、核家族化の進展により高齢者だけの世帯の増加や体力の衰えによる日常生活の不安感によるものと思われる。

(活力)

① 住みやすい理由

柳津町は「住みにくい。」よりも「住みやすい。」と答えた回答が多く、その理由としては「買い物などの日常生活が便利」が42.3%で最も高い割合であった。

また、将来の居住地についての問いでは「できれば住み続けたい。」が49.7%と高く、これは、日常生活に必要な食料品などの買い出しが便利なことの表れであり、大きな災害もなく静かで温暖な気候の柳津町がよいと思われる。

② 必要な行事

まちづくり活動を活性化させるために必要な新たな行事を行うかの問いには、「現状のままでよい。」との回答が31.6%で最も高い割合であった。

これは、行事の数をこれ以上増やさないでほしいとの意見が要因と思われるが、高齢者と子どもの交流を望まれる意見や、盆踊りで各自治会出店の屋台の増設などの意見があるため、新たな行事を模索してもよいのではないかと思われる。

(安心・安全)

改善が必要な分野・箇所

「子どもや高齢者の交通事故の防止」、「高齢者一人世帯の緊急通報システム構築」、「防犯灯の設置個所の過不足の確認」、「防災行政無線の早期拡充・整備」などへの関心が高い。高齢者一人世帯が増加し、また、道路事情や交通量の増加から要支援者の安全確保が重要である。

(人権)

今後の住民学習

「差別のない明るく住みよいまちづくり」を目指して住民学習会を行っているが、人権意識の高揚に限らず、子ども・高齢者・防火・防犯について様々な課題を出し合って話し合いができる場にする必要がある。

(その他)

① 今後の取り組み

「慶応浜・大土手を自然運動公園に」とするよう求める意見が23.2%と高く、また、「高齢者・障がい者福祉のまち」、「地域の安心・安全」への取り組みについて意識が高く、健康づくり、子育て支援と合わせて取り組みが急がれる。

② 地域活動への参加促進

「若い世代が自治会行事に参加する工夫」をあげた割合は35.6%と大変高く、若者の自治会離れを食い止める手だてが必要である。若者が多く参加できる行事、環境づくりが求められる。

また、「要請があればお手伝いしてもよい。」、「知人・仲間と一緒にあれば手伝う。」というような意見も35.7%あった。

③ 今後の自治会運営

「高齢者だけの世帯は役員の免除制度」を設けてほしいとの意見は65歳以上の回答者の内44.4%と高い割合であった。

また、「高齢者世帯は自治会費以外を減額してほしい。」との意見も19.9%あった。この2点については十分に検討する必要があると思われる。

「子ども会行事の『とんど』は自治会行事に」との意見も19.7%と高かった。

少子高齢化の社会になりつつある現状では「とんど」行事の再考も必要な時期に来ていると思われる。

(3) まちづくりの基本方向

① 学区の目標

子どもから高齢者までが、いつまでも安心して暮らせる柳津町をめざして、自然あふれる環境と地域資源を効率的に活用しながら住民同士が共に助け合い、将来に希望の持てる明るく住みよいまちづくりを推進することとする。

② 計画の基本

この計画は、柳津学区のまちづくりの指針となるものであり、町民みんなで計画の趣旨を共有し、それぞれの立場で可能な範囲で計画の実現に向けて役割を果たすこととする。

③ 計画の期間

この計画の期間は、2017年度（平成29年度）から2026年度（平成38年度）までの期間とする。ただし、学区を取り巻く状況の変化等から必要に応じて計画の見直しをすることとする。

4 まちづくり活動の具体的な施策

(1) 計画策定の総括

学区のまちづくりアンケート調査でいただいた貴重な意見や要望を基に、計画策定のワーキング会議である「策定小委員会」・「まちづくり委員会」において検討協議しながら、まちづくりの方向性や具体的課題などについて整理した。

(2) まちづくり推進委員会の役割

① まちづくり事業

まちづくり計画において、まちづくり推進委員会が取り組むべき施策を、「教育」、「歴史・文化」、「環境」、「福祉」、「活力」、「安心・安全」、「人権」、「その他」の8つの分野に分類し、それぞれの施策実現に向けて取り組むこととする。

② 社会基盤等の整備

社会基盤の整備や公共施設の整備に関するものについては、まちづくり推進委員会において鋭意協議を重ね、優先度の高いものから市・行政等に要望活動を改めて行なうこととする。

(3) 分野別まちづくり計画

① 事業計画の策定

8つの分野ごとに、それぞれ「目標」、「課題の解決策」、「具体的事業と役割分担」等について整理し、現在実施している事業を基本に今後の事業計画を策定した。

② 留意事項

具体的事業と役割分担等の表における「実施主体」及び「目標達成期間」の考え方は、次のとおりである。

実施主体

- ・ 「学区」とは、まちづくり推進委員会が主体性をもって行なうものをいう。
- ・ 「協働」とは、まちづくり推進委員会と行政（市・県など）が役割を分担しながら協力して行なうものをいう。
- ・ 「行政」とは、行政（市・県など）が主体性をもって行なうものをいう。

目標達成期間

- ・ 「短期」とは、概ね3年以内に達成する目標であるものをいう。
- ・ 「中期」とは、概ね5年以内に達成する目標であるものをいう。
- ・ 「長期」とは、概ね10年以内に達成する目標であるものをいう。

(4) 具体的計画

① 教育

a 目標

- ・ 地域が一体となって子どもを育成するとともに、いじめやけんか防止に目配りする。
- ・ 子どもの居場所の確保と子育て支援の行事を開催する。
- ・ 公立中学校で給食を実施するよう要望する。

b 課題の解決策

- ・ 地域ぐるみで子ども達を育成するため学校と連携して児童の登下校時にあいさつ運動の実施や、交通マナーの指導をする。
- ・ いじめなどの未然防止の取り組みとして、見守り活動を充実させる。
- ・ 保育所、小中学校と家庭が連携し、地域が一体となって子どもを育成する。
- ・ 公立中学校で給食を実施する。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施体制		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
ふれあい交流事業	地域ぐるみで子どもの育成	○		○		
あいさつ運動	校門，通学道路，各地域で実施	○		○		
地域で見守り支援	自宅付近，身近な場所で見守り	○		○		
放課後子ども教室	放課後の子どもの見守り	○		○		
小学生の郷土史跡巡り	小学生の町内地理，歴史ウォーキング	○		○		
公立中学校で給食	公立中学校で給食の実施		○			○

② 歴史・文化

a 目標

- ・ 柳津町の歴史や由来を教える。
- ・ 柳津町の郷土芸能の神楽・胴鉦おどり，はねこなどの取り組みと保存活動の強化を図る。
- ・ 町内の貝塚や史跡に看板や案内板を設置して，後世に伝える。

b 課題の解決策

- ・ 画像などによる柳津の歴史教室を開催する。
- ・ 柳津町の神社仏閣，神話，伝説を後世に伝える。
- ・ 町内の郷土芸能神楽，山車，胴鉦おどり，はねこ保存会を立ち上げ後世に伝承する。
- ・ とんど，亥の子，その他の行事について，いわれや起源などを伝承する。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施体制		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
ふれあい伝統芸能	小中学生，保育所児童の体験	○		○		
伝統芸能教室	小中学生，保育所児童を対象の教室	○		○		
伝統芸能支援	自治会（町内会）で伝統行事・芸能の支援	○		○		
各史跡整備	看板，案内板の設置及び修復	○	○	○		
町内史跡マップ作成	町内の神社仏閣，史跡，神話，伝説	○		○		
郷土史跡巡り	町内の地理，歴史ウォーキング	○		○		

2016年（平成28年）8月15日橘神社にて胴鉦おどりの奉納



橘神社秋祭りにて
神楽の奉納



③ 環境

a 目標

- ・ 河川や道路周辺のごみ投棄への対策（看板の設置など）及び清掃活動を行い水質環境や美観を守る。
- ・ 犬猫などペット飼育のマナーの向上。特に犬の散歩時の糞の処理など，他者への配慮に努める。

b 課題の解決策

- ・ 定期的な清掃や除草活動を継続的に行い，ごみ投棄をしない環境を作る。
また，水質環境の調査を行い，改善策を検討し環境整備を行う。
- ・ 犬の糞の放置が多いエリアなど町内実態を把握し，飼い主のマナー向上に努めるよう働きかける。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施主体		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
市場大土手の清掃	年2回の清掃の実施	○		○		
各自治会（町内会）の清掃	各自治会（町内会）の一斉清掃	○		○		
啓発看板設置	看板の設置と周辺草刈清掃	○	○	○		
不法投棄撲滅	定期的に巡回	○		○		

④ 福祉

a 目標

- ・ 就学前の子育て支援が充実し、子どもの健全な成長が期待できる「まちづくり」をめざす。
- ・ 高齢者などが地域でのびのびと安心して生活でき、地域参加が簡単にできる「まちづくり」をめざす。

b 課題の解決策

- ・ 少子高齢化の中にあって、次世代を担う子どもを安心して育児することができるよう、広い公園の設置や育児の情報交換ができる場の一層の充実に取り組むなど、地域として子育てを支援する仕組み作りに向けた活動を行う。
- ・ 日常生活で単独行動に不便・不安を持っている高齢者，一人世帯などが増加する中であって地域として真に求められる福祉政策を再構築する。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施主体		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
子育て支援事業	妊婦，乳幼児を対象とした子育て支援	○		○		
高齢者支援事業	高齢者の見守り	○		○		
献血推進	献血の啓発，受付		○	○		
敬老会開催	長寿者表彰，アトラクション	○		○		
給食・配食サービス	高齢者一人住まいに弁当を	○		○		
ふれあい，いきいきサロン	コーラス，お茶会，百歳体操	○		○		
リサイクルマーケット	生活不用品の販売会	○		○		
生活学校	廃油石鹸，柏餅	○		○		
幼児一時預かり	買い物，通院時の一時預かり	○	○		○	
広域公園	安全な遊具や運動公園，休憩所設置	○	○			○
福祉政策再構築	高齢者一人世帯への施策	○	○		○	

⑤ 活力

a 目標

- ・ 各世代の意識を統一して「柳津町は住みやすい。」との実感の持てる「まちづくり」をめざす。
- ・ 各種行事の内容を工夫して魅力を高め、「柳津町に住み続けたい。」と思える「まちづくり」をめざす。

b 課題の解決策

- ・ 柳津町の伝統行事・立地環境など、よいところを活用したまちづくり策を住民で策定・共有し、実現に向けて取り組む。
- ・ 各種行事の実施方法や町民の全員が参加できる方法について、各世代の意見を反映できる仕組みを構築する。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施主体		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
町民体育大会	小学校児童と合同の運動会	○		○		
精霊盆踊り大会	お盆法要と盆踊り，夜店	○		○		
敬老会	長寿者表彰，アトラクション	○		○		
文化祭	作品出展，アトラクション，各種販売	○		○		
各種スポーツ大会	ソフトボール，卓球，ソフトバレーボール等	○		○		
高齢者とウォーキング	高齢者と共に竜王山などへウォーキング	○		○		
文化祭の活性化	文化祭でバザーやフリーマーケットの実施	○		○		

2016年(平成28年)
5月22日柳津学区町民
体育大会での親子三代競争
の風景
(50組が参加)



毎年8月13日に
開催の精霊盆踊り
大会



⑥ 安心・安全

a 目標

- ・ 交通事故のない、安全な「まちづくり」をめざす。
- ・ 高齢者一人世帯等の急病時や自然災害時において、地域が支援する仕組みを構築する。

b 課題の解決策

- ・ 子どもや高齢者等の交通事故を防止するために、交通安全への理解と意識啓発を行うとともに、危険箇所の調査を行い、計画的な是正措置に向けて取り組む。
- ・ 要支援者の日常生活における安心・安全を確保するためのシステムづくりについて、行政や福祉団体と連携して解決策を検討する。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施主体		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
車道の拡幅(事故防止)	危険箇所の抽出		○			○
歩道の設置(事故防止)	危険箇所の抽出		○			○
カーブミラーの設置	危険箇所の抽出		○	○		
防災行政無線の増設	増設箇所の抽出		○		○	
防災リーダーの育成	リーダーの育成研修と訓練の実施		○	○		
災害時の避難支援	要支援者のサポートと防災訓練		○	○		
防犯灯の増設	設置箇所の抽出		○		○	
防犯カメラの設置	設置箇所の抽出		○		○	

2016年(平成28年)3月6日防災訓練後小学校体育館での防災教室(講師=防災リーダー高橋先生)



⑦ 人権

a 目標

- 子どもから高齢者・障がい者までみんなが大切にされ、地域で支える体制を構築し、人権が尊重される明るく住みよい地域社会をめざす。

b 課題と解決策

- 町民がお互いに支え合える地域社会の実現には、それぞれの人権を尊重する事が必要であることから、住民学習を継続的に実施する。学習内容については、「ビデオ鑑賞と話し合い」により改めて気づくことが多いことから、時宜を得た柔軟な内容も取り入れて幅広い世代の参加促進を図る。
- 啓発活動については、町民みんなのものとしていくための研修・組織・体制の充実に向けて取り組む。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施体制		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
自治会（町内会）別住民学習	各自治会（町内会）昼・夜の部		○	○		
団体別研修	行政職員の会等	○		○		

⑧ その他

a 目標

- 「慶応浜・大土手を自然運動公園に」を重点課題とし、地域住民と行政が一体となり協働の「まちづくり」を進めていく。

b 課題の解決策

- 慶応浜・大土手自然運動公園の設置をはじめ、地域住民の健康・福祉・安心・安全の確保を図る取り組みを強化する。
- 若い世代が自治会行事に積極的に参加する工夫を検討する。
- 高齢者世帯の役員免除と、自治会（町内会）費など負担の軽減を図る。
- 「とんど」行事等子ども会と自治会行事について連携の強化を図る。

c 具体的事業と役割分担

事業名	事業内容	実施主体		目標達成期間		
		学区	協働・行政	短期	中期	長期
自然運動公園の設置	慶応浜・大土手の公園化	○	○			○
高齢者世帯支援事業	高齢者の見守り	○		○		
	役員の免除	○		○		
	各種会費の負担軽減	○		○		
行事内容の見直し	「とんど」行事の検討	○		○		
	それ以外の行事の検討	○	○	○		

大土手の桜並木
(慶応浜)



以前は、1月14日に神明祭として「とんど」を作り点火していたが、現在は、日時を設定して子ども会を中心に「とんど」を作りお祭りを行っている



5 まちづくり計画の実施体制

(1) 実施体制

この計画の実施に当たっては、これまでと同様にまちづくり推進委員会が主体となって推進することとする。ただし、個別の事業実施に当たっては、まちづくり推進委員会は、各団体の中で当該事業に最も関係の深い団体（以下「実施団体」という。）を中心に依頼する。

(2) 実施方法

個別の事業実施方法としては、実施団体が中心となり、これまで以上に関係団体と連携を強化し事業を実施する。

なお、より多くの町民参加・協力が得られるようにするために、事業の見直しが必要なときは、関連団体と協議し企画書を策定し、まちづくり推進委員会へ報告すること。

まちづくり推進委員会では、報告を基に各種団体と協議決定する。

実施団体は、計画書を策定し実施する。

まちづくりアンケートへご協力を頂きまして、ありがとうございました。

1,029人分のアンケートで五つの山があります。全て一枚一枚目を通して取りまとめました。



資料編 1 まちづくりアンケート実施方法

(1) 事前アンケート

報告書

2015年（平成27年）7月6日から8月末日までアンケート調査を実施し、8月31日に回収した。

自由記載方式のためか配布総数762戸に対して回収世帯は188戸と低い割合であった。

アンケート取りまとめ件数は308件であったが、同内容のものが292件に取りまとめられた。

その内容を端的にまとめると

全体像について＝2件 教育関係について＝23件 安心・安全について＝25件

協働について＝49件 公共施設について＝18件 空き屋対策について＝6件

その他79件あり、これらを集約し柳津学区地域まちづくり計画アンケートとして取り組むこととした。

(2) 2回目アンケート

報告書

2016年（平成28年）3月1日からアンケート用紙を配布し3月24日から27日にかけて回収し、5月初旬に事務局が集計したものを策定小委員会に諮り分担して取りまとめた。

取りまとめについて

① 質問項目別の回答状況の分析

- ・ 回答状況を数値化し、柳津学区の現状と課題についてグラフに表すことでより理解しやすくした。

② 自由記載の「その他」意見の項目別分析と課題

- ・ まちづくりの基本方針及び、まちづくり活動の具体的な施策が計画できた。

地域別配布回収状況

(会員戸数については2016年2月末現在)

地域	会員戸数	配布枚数	有効回収枚数	回収率 (%)	世帯回収率 (%)
東	146	250	211	84.4	144.5
市場	131	220	177	80.5	135.1
中	58	100	86	86.0	148.3
灘	168	277	202	72.9	120.2
西	259	440	353	80.2	136.3
合計	762	1,287	1,029	80.0	135.0

アンケートの世帯配布枚数は、自治会（町内会）会員戸数の1.7倍程度

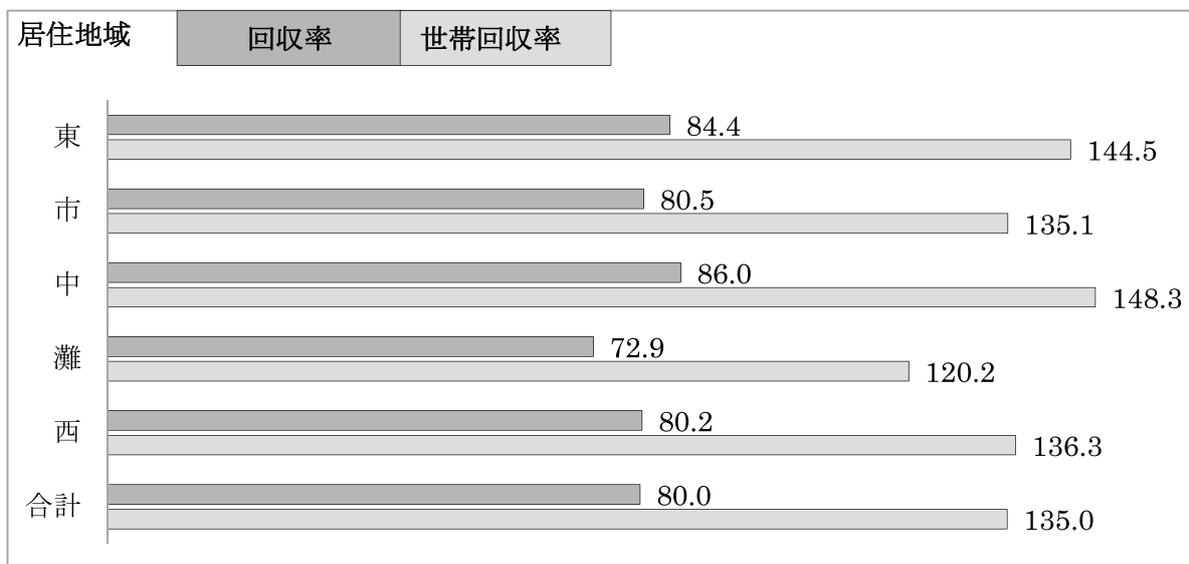
「その他」自由意見の地域別記載件数

質問 番号	質問項目	東	市場	中	灘	西	合計
1	居住地域			1			1
2	年齢						
3	性別						
4	住みやすい理由	9	9	7	6	9	40
5	住みにくい理由	18	14	5	23	31	91
6	将来の居住地について	4	5	2	6	5	22
7	子ども教育への支援	6	8	2	7	11	34
8	歴史・文化	7	5		7	7	26
9	町の美化	12	9	6	18	22	67
10	河川環境	11	5	2	2	7	27
11	就学前の子育て支援	6	5	1	3	4	19
12	高齢化社会の現状	3	4	4	5	8	24
13	障がい者支援について	4	2	2	2	2	12
14	高齢者の将来	4	5	1	5	4	19
15	高齢者支援	7	5	1	3	6	22
16	必要な行事	10	13	6	4	17	50
17	柳津らしさの創出	5	4	1	4	7	21
18	改善が必要な分野	11	7	2	8	14	42
19	改善が必要な個所	23	29	15	25	35	127
20	今後の住民学習会	3	3	4	4	4	18
21	今後の取り組み	10	4		2	3	19
22	地域活動への参加促進	17	8	8	17	16	66
23	今後の自治会運営	11	20	7	15	23	76
24	公共施設の設置	20	25	5	11	22	83
25	あなたの家族構成					1	1
26	自由記述	26	18	4	18	27	93
合 計		227	207	86	195	285	1,000

(3) アンケート調査結果

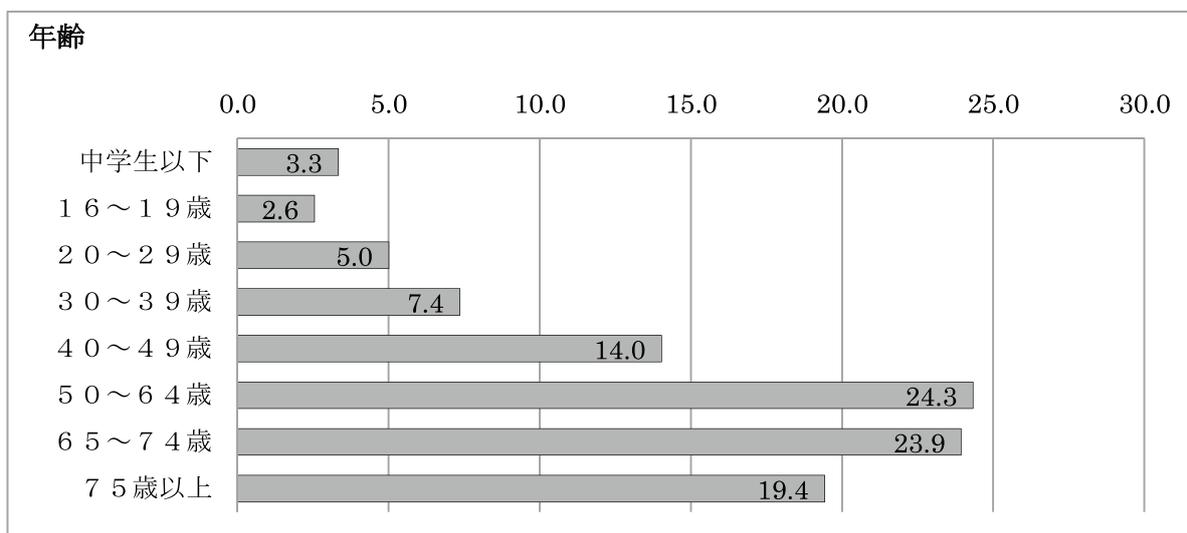
回答者関係について

質問1 居住地域について（地域別配布回収状況をグラフ化した。）



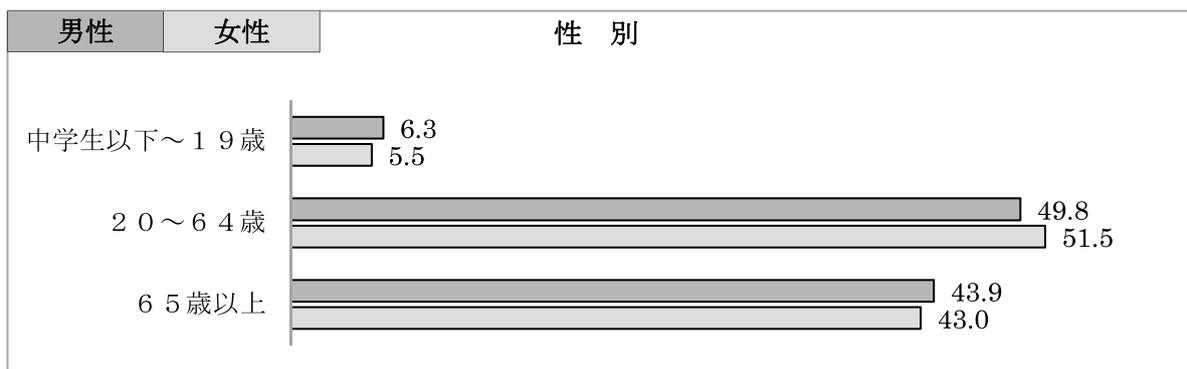
現在お住まいの地域の問いに対しては、灘地域の回答者が72.9%であったが、他の4地区は80%を上回る結果となった。ただし、全て白紙の回答者については回答数に含まれていない。

質問2 年齢について（回答数1,019=100%）



回答者に年齢区分についての問いに対しては、若年層の回答者が非常に少なく、逆に50歳以上の回答率は67.6%と非常に高かった。

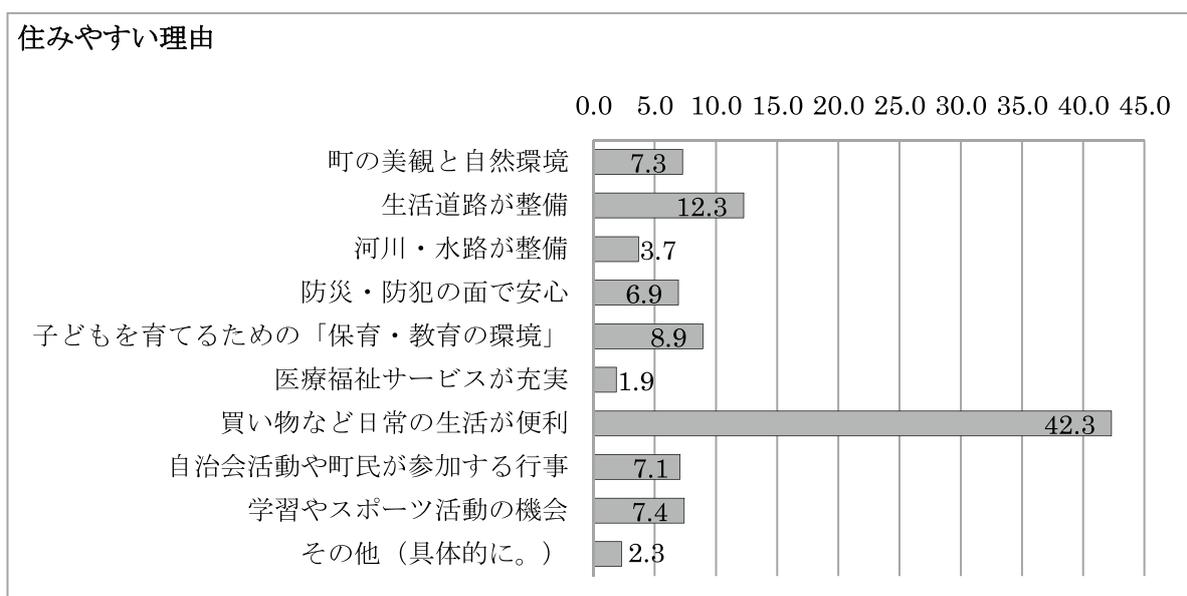
質問3 性別（回答数1,017＝100%男性510人，女性507人）



性別の問いに対しては、どの年齢層も同じ程度の回答であった。集計については男女混合で行った。

学区又は居住地について、住みやすい理由又は住みにくい理由を教えてください。

質問4 住みやすい理由（回答数1,444＝100%・2つ以内選択）

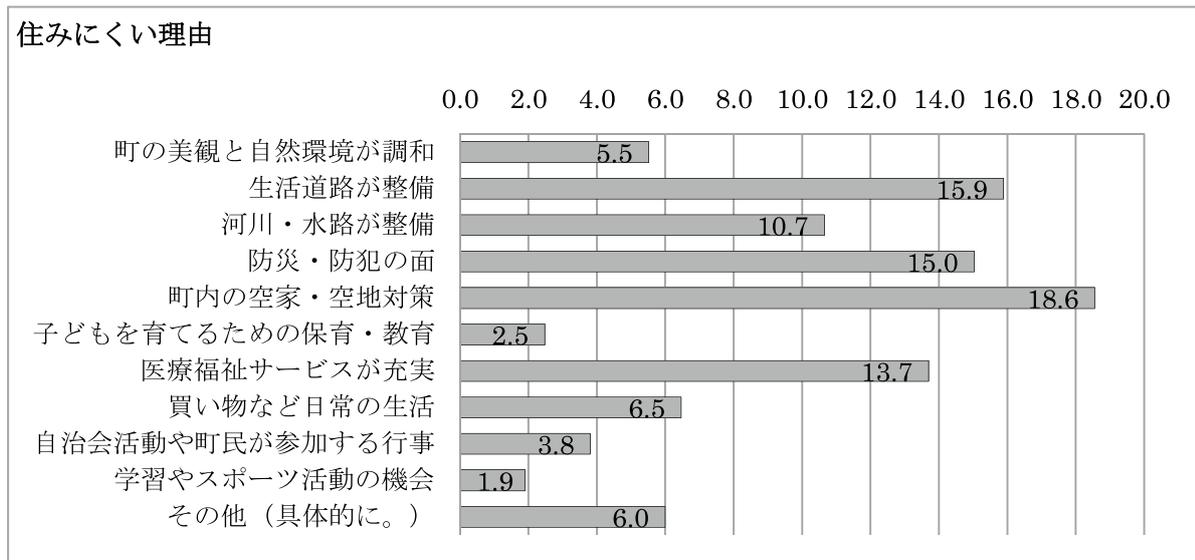


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 静かで温暖な気候である。
- ・ 大きな災害がなく生まれ育った町である。

学区又は居住地の特色・強味であると思うところの問いに、「買い物など日常の生活が便利」と感じる人が42.3%と最も高い割合となった。

質問5 住みにくい理由（回答数1,051＝100％・2つ以内選択）

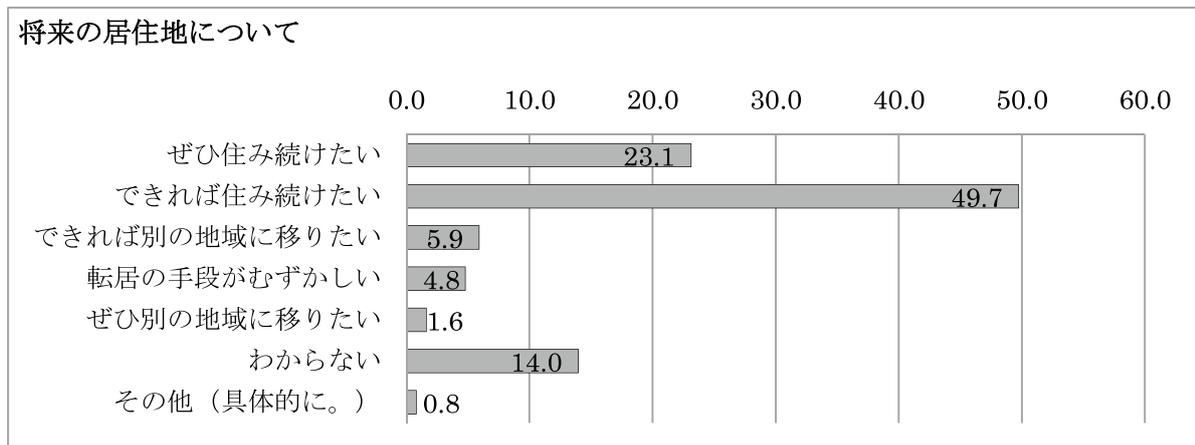


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 道路が狭く、川が汚い。水路に蓋がない場所があり危険である。
- ・ 自治会活動や町民が参加する行事が多すぎるのでは。
- ・ 町内会の役員が順番制となっているが、高齢世帯では役員の参加が難しくなっている。

学区又は居住地域の課題・弱味であると思うの問いに、「町内の空き家・空地対策，生活道路の整備，防災・防犯の面」に不安を感じている割合が高かった。（49.5％）

質問6 将来の居住地について（回答数981＝100％・1つ選択）



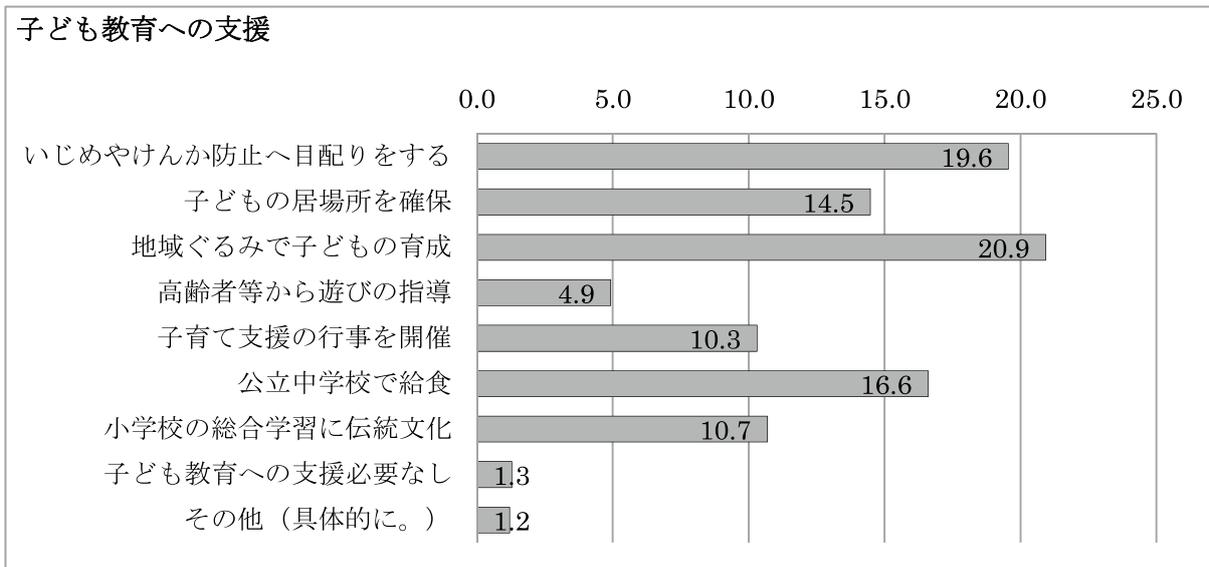
（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 長年住み続けており住み慣れている。
- ・ 高齢者になったときは不安である。（買い物とか病院への通院）
- ・ 将来的には子どもたちの所に移り余生を過ごすようになるのではないか。

「住み続けたい。」という回答は、70％を超え住みやすい町であるといえる。しかし、約10％の人は移住したい意向があるということも現実である。

教育関係について

質問7 子ども教育への支援（回答数1, 319 = 100%・2つ以内選択）

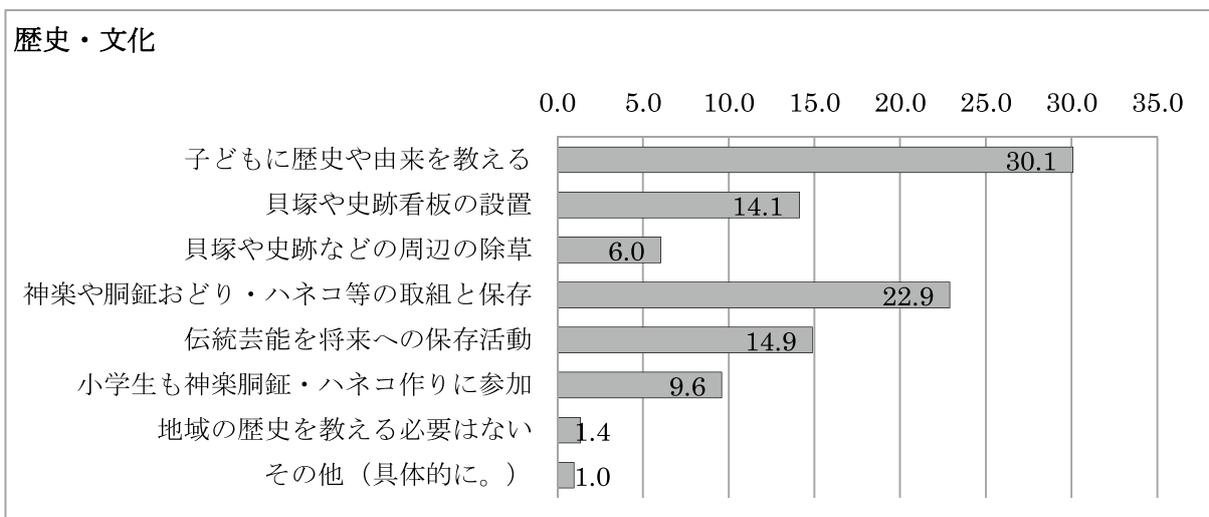


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 簡単な声掛けを日常化する。おはよう、お帰りなど。
- ・ 小学校の参観日などに町内会の人誰でも参観できたらいい。
- ・ 中学生以上にも子ども会のような活動団体を作り、自治会行事など積極的に参加できるようにする。

子ども達に対して、地域は「いじめ、けんかへの目配り」、「地域ぐるみで子どもの育成」という回答が高い割合で（40.5%）、子ども達を健全に育成することが重要である。

質問8 歴史・文化（1, 323 = 100%・2つ以内選択）



（「その他」記述意見の主なもの。）

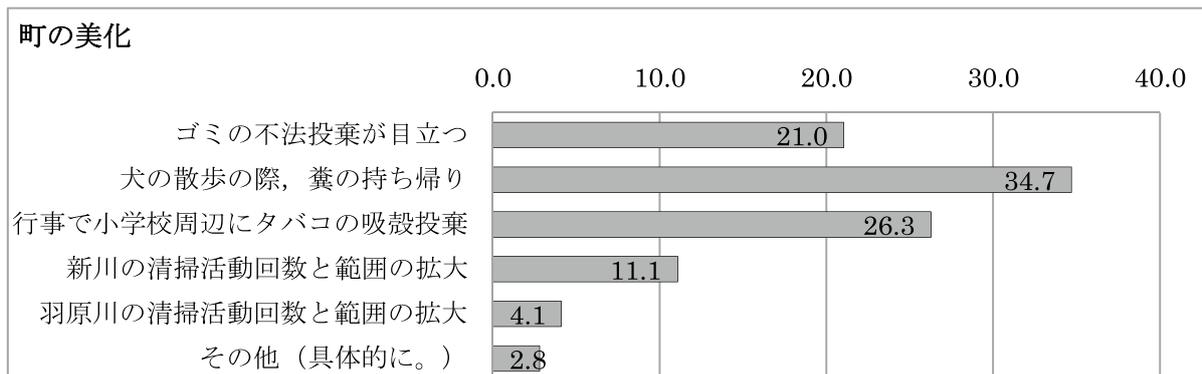
- ・ 史跡マップを作りその由来を説明する。
- ・ 大人が歴史を認識し伝統の質的向上に努める。

- ・ 小学校で神楽と胴鉦を習っているのなら発表会の場が必要である。

郷土の歴史や神楽・胴鉦おどり・ハネコ等の伝統芸能に取り組んだり参加・保存が77.5%と非常に高い。

環境の関係について

質問9 町の美化（回答数1,245=100%・2つ以内選択）

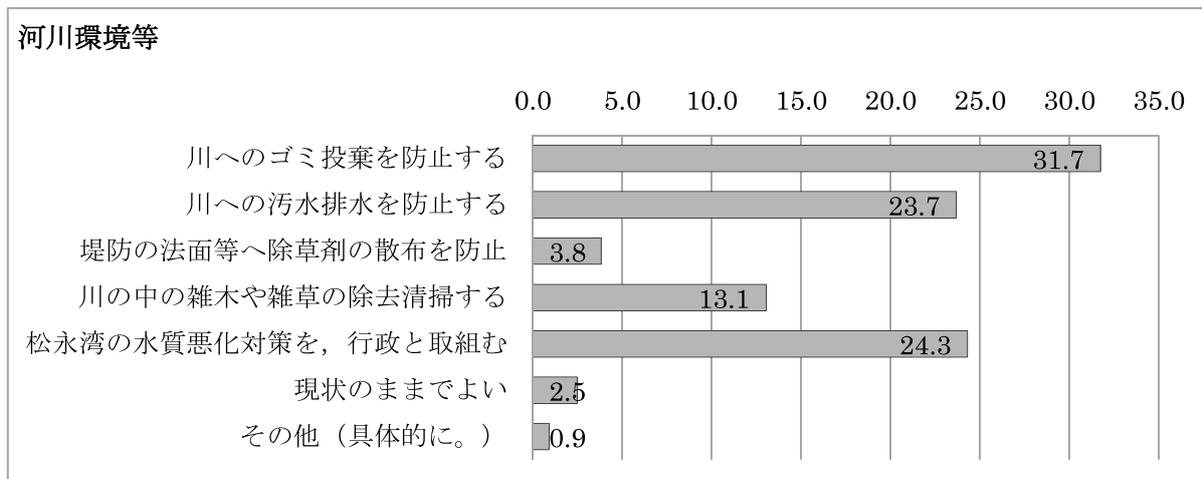


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 定期的に町内の清掃活動を実施する。
- ・ 不法投棄などなくし、マナーを守ってほしい。
- ・ 犬、猫の糞についても飼い主はマナーを守ってほしい。

清掃活動をする前に「不法投棄をしない・させない」ことが大切であることを、ほとんどの回答者が認識している。

質問10 河川環境等（回答数1,440=100%・2つ以内選択）



（「その他」記述意見の主なもの。）

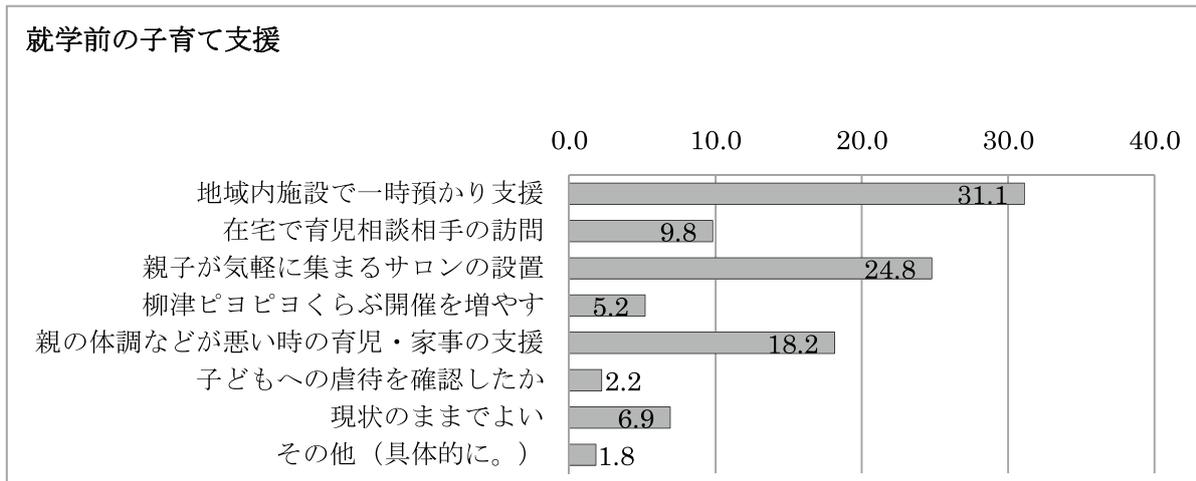
- ・ 水質汚染調査を行い、結果を分かり易くグラフ化して意識づけをする。
- ・ 河川水域周辺において地域ぐるみでの環境づくりを推進する。

- ・ 水質悪化対策として、行政に早期下水道整備を働きかける。

河川環境については、ごみ投棄の防止・汚水排水の防止・松永湾の水質悪化対策が79.7%の回答となり非常に高かった。

福祉関係について

質問11 就学前の子育て支援（回答数1,041＝100%・2つ以内選択）

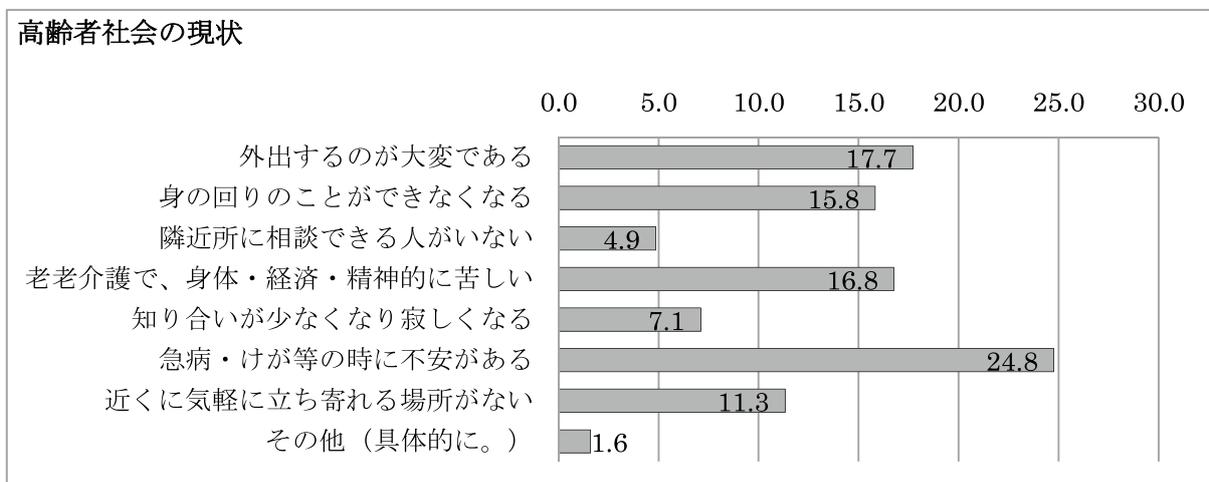


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 近くに子どもを連れていける公園がほしい。（広くて、3歳までの子どもが安全に遊べる砂場、低い滑り台等の遊具がある公園）
- ・ 「保育所」周辺の道路交通規制が厳しく、送り迎えが不便なため改善してほしい。

「一時預かり支援」と「親子が気軽に集まれるサロンの設置」が55.9%の回答率で非常に高かった。

質問12 高齢者の現状（回答数1,377＝100%・2つ以内選択）

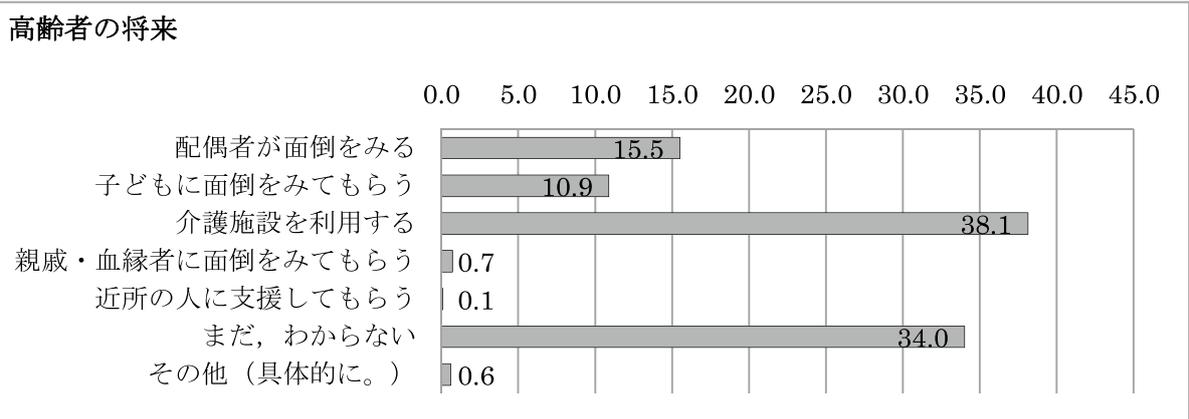


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 近所に話や相談できる人がいない。
- ・ 気軽に立ち寄って話や運動ができる施設がない。
- ・ 高齢者や独居老人が増えているが、状況を把握し支援する体制を作ってほしい。

高齢者や独居老人の世帯が増えてきているので、隣近所の声掛けが必要である。

質問 1 3 高齢者の将来（回答数 9 7 3 = 1 0 0 % ・ 1 つ選択）

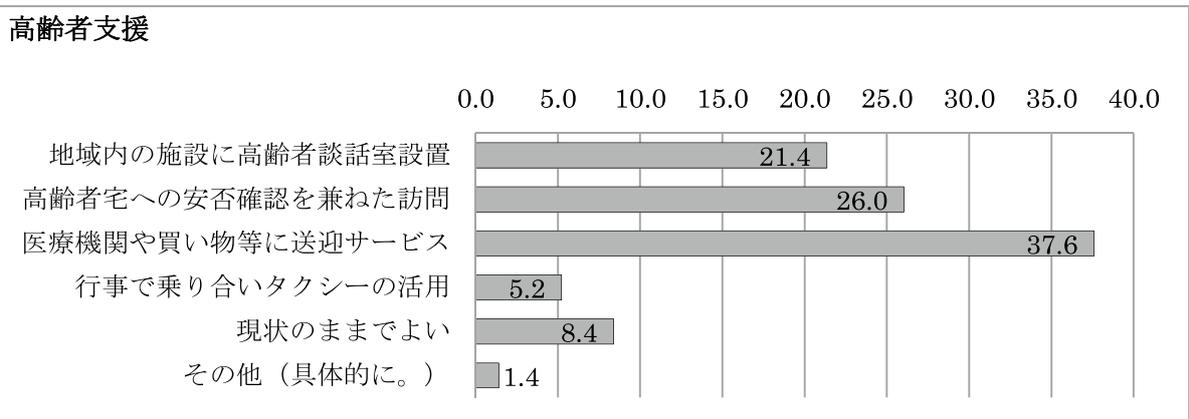


（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 介護の程度によるが、施設への入所やデイサービスを利用する。
- ・ 子どもはいるが、経済的な面などを考えたら負担はかけられない。

「介護施設を利用する」が 38.1% と高い割合であるが、介護施設への入所も順番待ちで高額となり苦慮される。

質問 1 4 高齢者支援（回答数 9 1 8 = 1 0 0 % ・ 1 つ選択）



（「その他」記述意見の主なもの。）

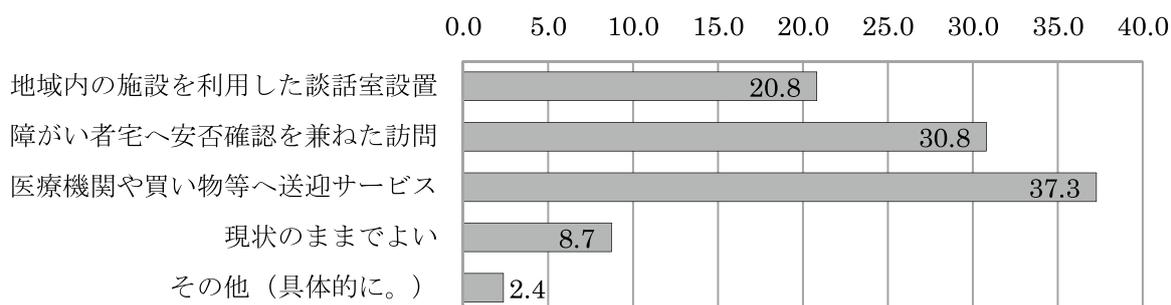
- ・ 集会所などを利用しての囲碁将棋大会や社交ダンスやウォーキングなどスポーツのイベントを企画して、高齢者が参加できる機会を作ってほしい。
- ・ 高齢者による自動車やバイクの運転が心配なので、いつでも利用できる交通手段を整えてほしい。

- ・ ゴミ出しなど、高齢者に負担な作業の援助や月当番などの役割を軽減してほしい。

高齢者にとって、地域にどんな事業があればよいと思うかの問いに、「医療機関や買い物等の送迎サービス」、「安否確認を兼ねた訪問」で63.6%と高い割合となった。

質問15 障がい者支援（回答数802＝100%・1つ選択）

障がい者支援



（「その他」記述意見の主なもの。）

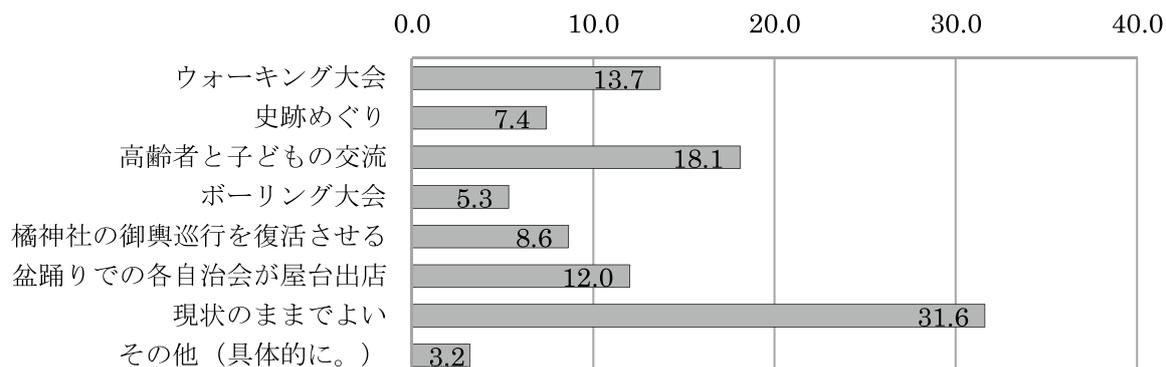
- ・ 障がい者が地域交流できる場所が必要である。
- ・ 障がい者にとって、優しい生活環境の整備が必要である。
- ・ 障がい者が自立できるような、社会に役立てる就労可能な仕事場を設立する。

「障がい者にとって、地域にどんな事業があればよいと思うか」の問いに「医療機関や買い物等に送迎サービス」、「安否確認を兼ねた訪問」、「談話室の設置」で88.9%と高い割合となった。

活力の関係について

質問16 必要な行事（回答数1,066＝100%・2つ以内選択）

必要な行事

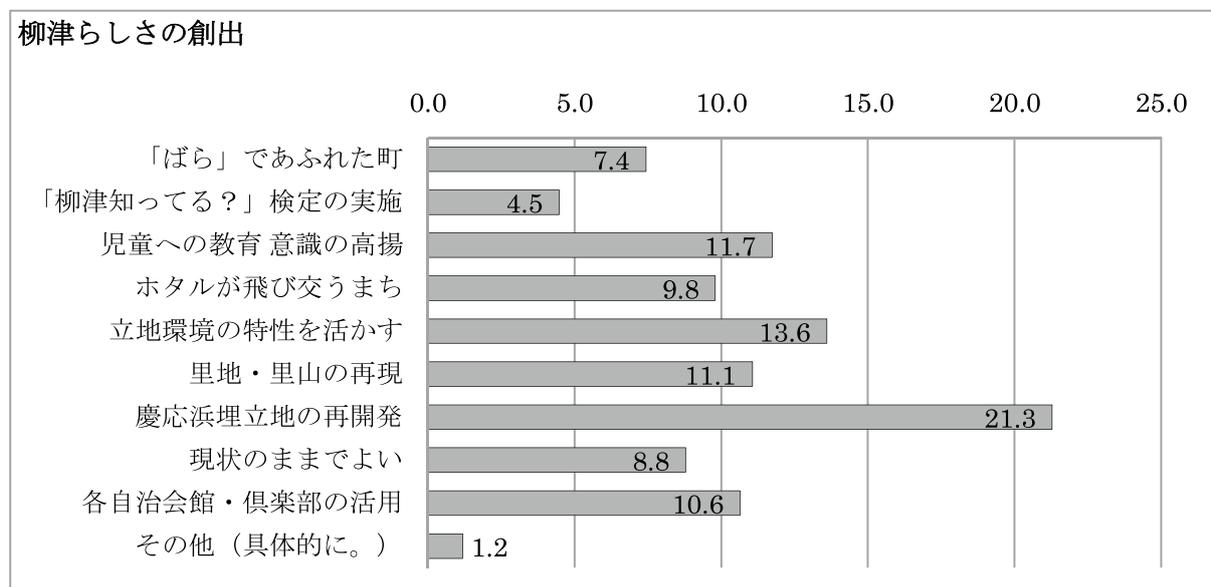


(「その他」記述意見の主なもの。)

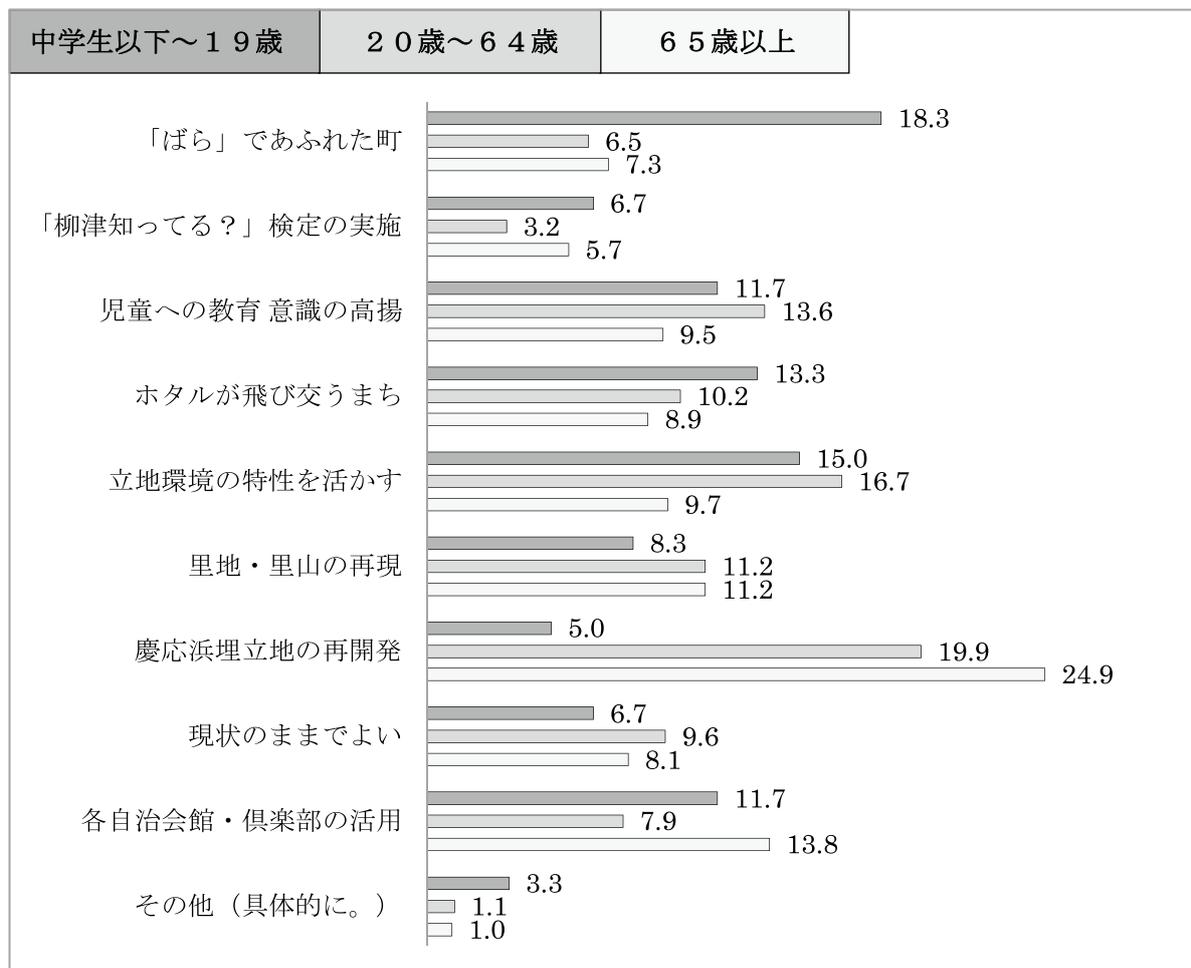
- ・ 行事を増やすことはないが、サッカー・マラソンや老人が可能なスポーツ行事を計画してほしい。
- ・ リサイクルの推進やバザー・フリーマーケット・青空市場を開催して売り上げを自治会費に入れて会費徴収削減をするとよい。

柳津学区には、各種団体が主催する行事がたくさんあるが、新しい事業の必要性の問いに対しては、「高齢者と子どもの交流事業」が18.1%となったが、「現状のままでよい」という意見も31.6%と高い割合となった。

質問17 柳津らしさの創出 (回答数1, 184 = 100%・2つ以内選択)



(回答数中学生以下～19歳60＝100%・20歳～64歳617＝100%・
65歳以上507＝100%・2つ以内選択)



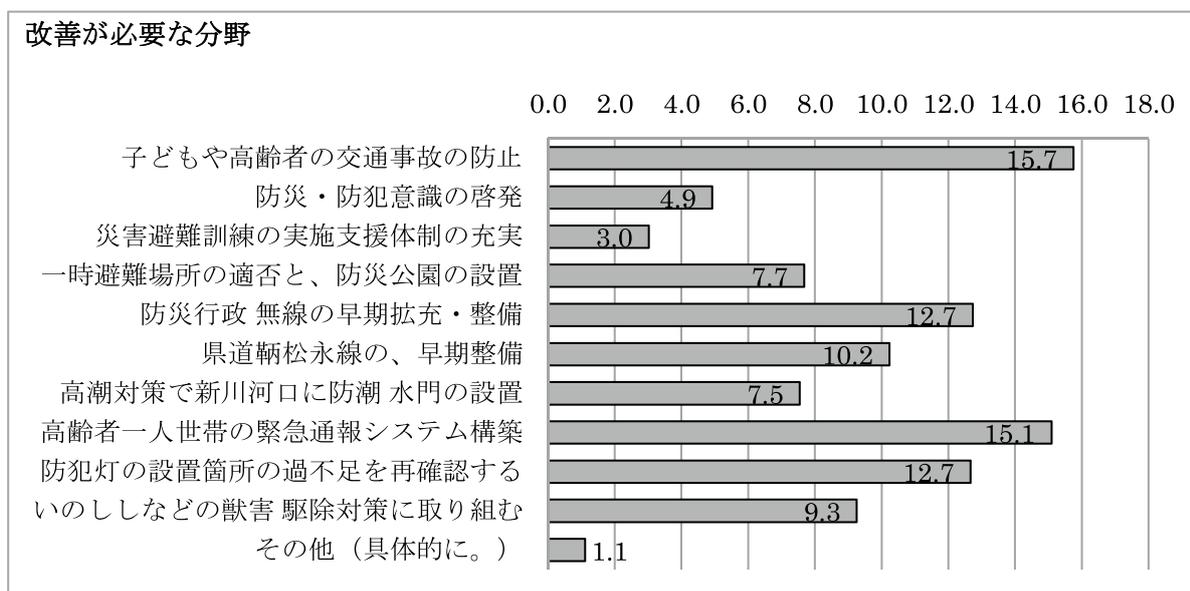
（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 近くに総合病院がほしい。
- ・ 慶応浜埋立地・大土手の公園化と子どもたちの憩いの場や工場等の仕事場にしたらよい。
新川周辺も見直し有効活用したらよい。
- ・ 耕作放棄地を有効活用のため柚等大量に栽培し柳津の特産物として町内運営資金を賄う。
（例：柚栽培でブランド名 やなゆず）

「柳津らしさの創出」という問いでは、3世代で比較を行った。中学生以下から19歳では「ばら」「ホテル」等の割合が高かったが、20歳以上では「慶応浜の再開発」が高い割合を示した。3世代で平均的に高い割合を示したのは、「立地環境の特色を活かす」という結果であった。

安心・安全関係について

質問 18 改善が必要な分野 (回答数 1, 524 = 100%・2つ以内選択)



(「その他」記述意見の主なもの。)

- ・ 県道鞆松永線の早期改善の推進と車道の拡幅・歩道の設置が必要である。
- ・ 防犯灯、カーブミラーの必要な場所の確認と設置、さらに防犯カメラの設置を検討する。
- ・ 防災行政無線がほとんど聞こえない。緊急時には本当に困る。
- ・ いのししの駆除対策に力を入れてほしい。
- ・ 「こんな柳津知っていますか？」のコーナーを「柳津町だより」に掲載し意識の高揚を図る。

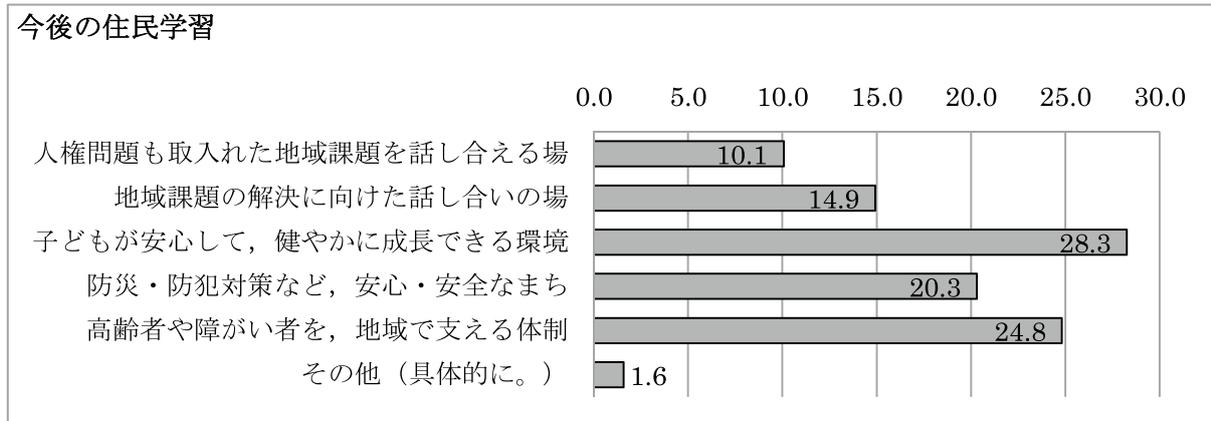
子どもや高齢者に対する交通事故や防災・防犯について関心が高い。

質問 19 改善が必要な箇所

- ・ 水路・川の改善として定期的な清掃を実施すれば、水生生物が戻ってくる環境になるのではないかと。
- ・ その他の改善として、地滑り危険区域や崖崩れ区域の点検を行政と行い、町民の意識を高める学習会を実施してほしい。
その中で、災害時避難誘導の指示ができるリーダーの育成を行ってほしい。

人権関係について

質問 20 今後の住民学習会（回答数 1, 524 = 100%・2つ以内選択）



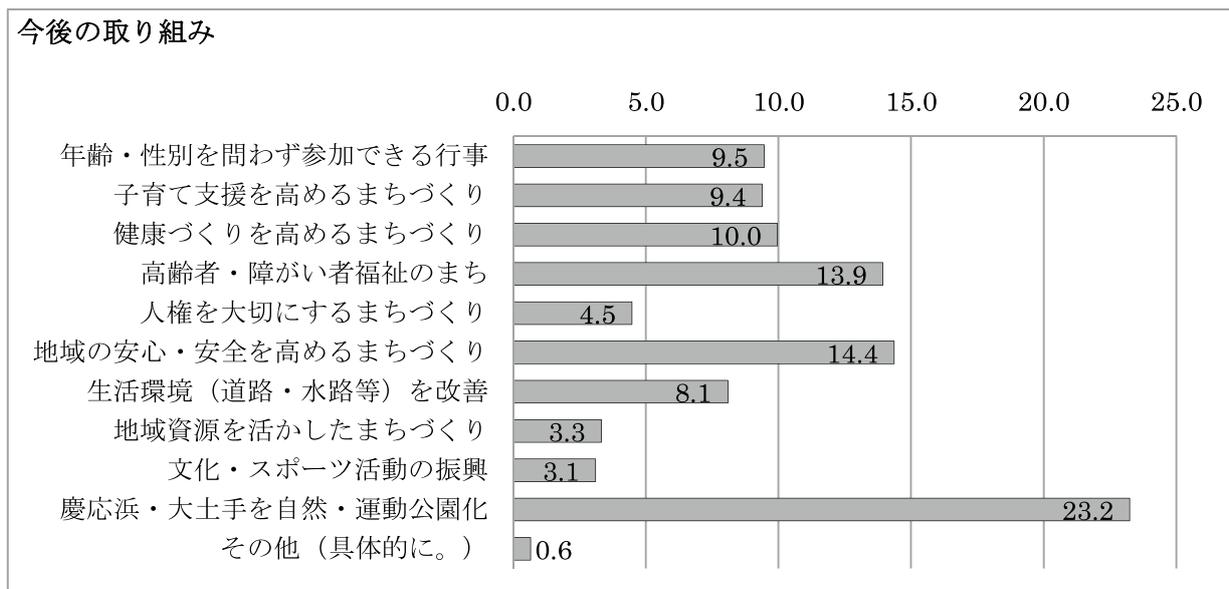
（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 今後も、ビデオ鑑賞と話し合いを行うことがよいと思う。また、この会に参加することで、改めて気づくことが多いと思う。
- ・ 若い人の積極的な参加を望む。
- ・ 防災・防犯対策の話をしていく。

住民学習会では人権を含め、子ども・高齢者・防火・防犯と様々な課題を話し合える場を作っていく必要がある。

協働関係について

質問 21 今後の取り組み（回答数 1, 385 = 100%・2つ以内選択）



（「その他」記述意見の主なもの。）

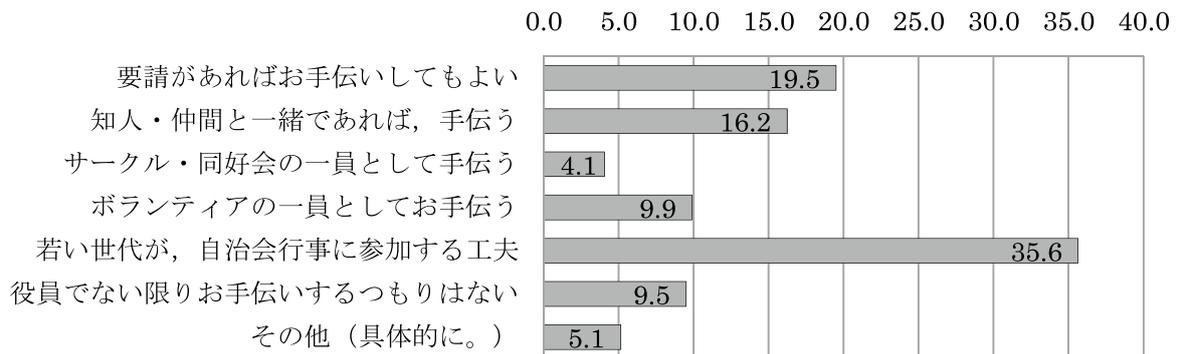
- ・ 住民が知恵と工夫を出し合い、健康づくりを進めていく。

- ・ 大きな災害時に近所に声掛けをし、安全に避難できるよう日常的な挨拶運動を実施している。

今後の取り組みについては、「自然・運動公園」に対する割合が23.2%と高い。また「高齢者・障がい者福祉のまち」、「地域の安心・安全」への取り組みについて割合が高かった。

質問22 地域活動への参加促進（回答数1,010＝100%・2つ以内選択）

地域活動への参加促進



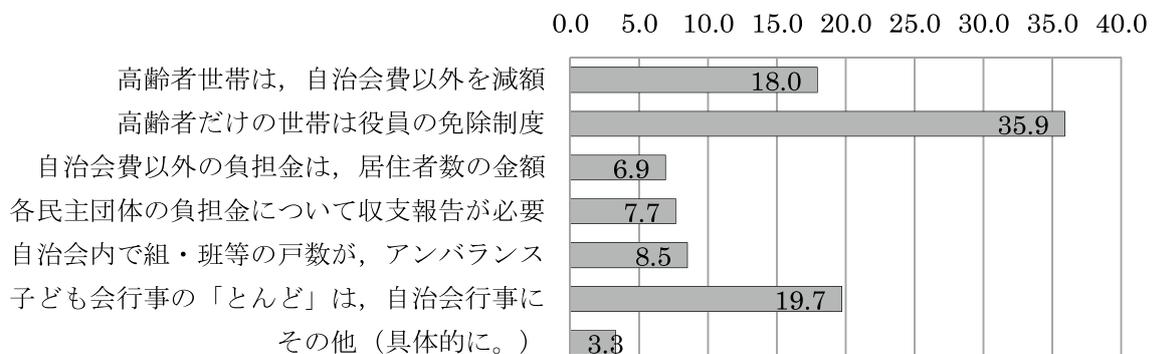
（「その他」記述意見の主なもの。）

- ・ 若い人が多く参加できる行事、環境づくりをする。
- ・ 高齢者なのでお手伝いができない。
- ・ 高齢者でもできるボランティアがあれば協力したい。
- ・ 参加したくない。

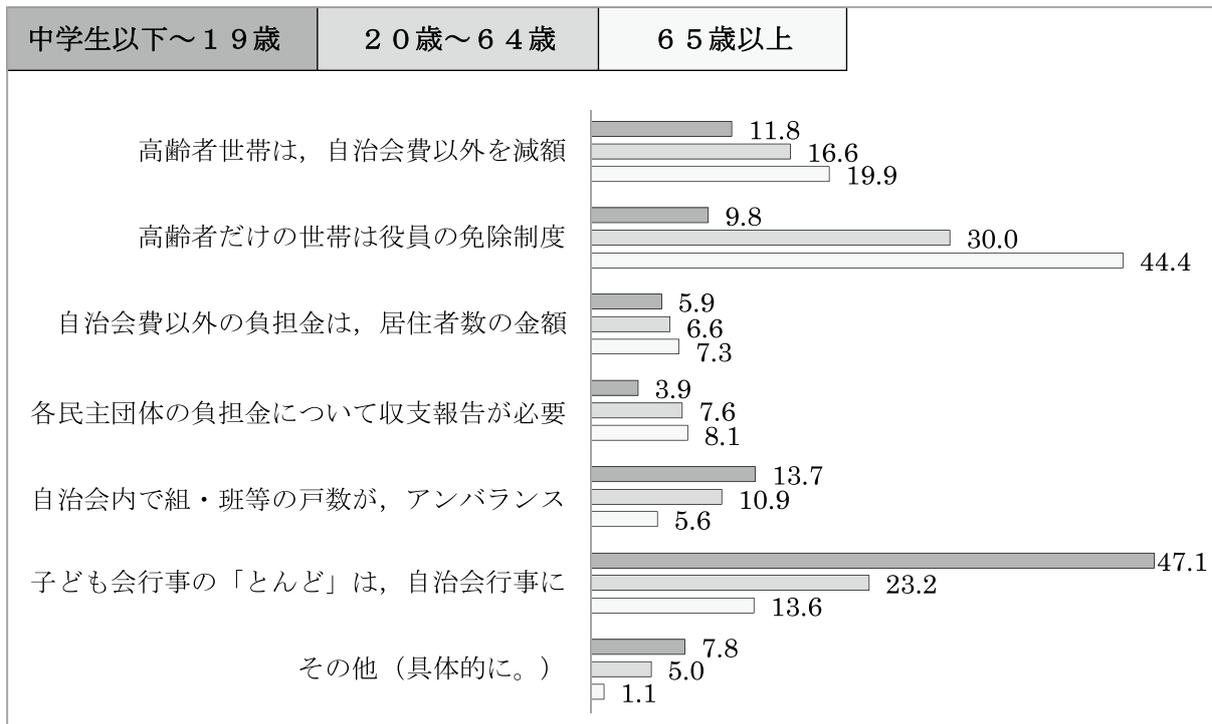
地域活動の参加促進については、「若い世代が自治会行事に参加する工夫」と「要請があればお手伝いをしてよい」という回答者が55.1%と高かった。

質問23 今後の自治会運営について（回答数1,186＝100%・2つ以内選択）

今後の自治会運営について



(回答数中学生以下～19歳51＝100%・20歳～64歳577＝100%・
65歳以上558＝100%・2つ以内選択)



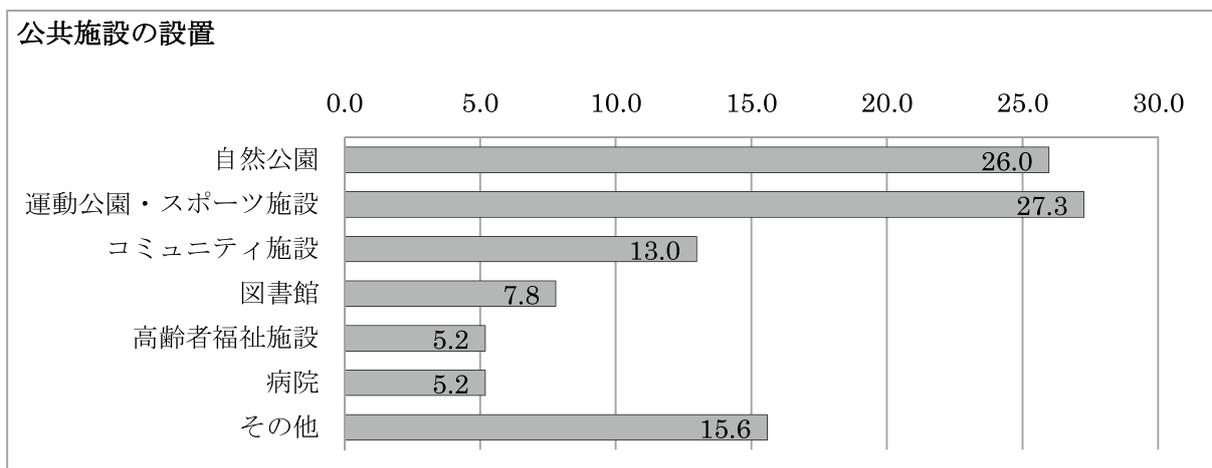
(「その他」記述意見の主なもの。)

- ・ 自治会の行事を少なくして、負担を軽くする。
- ・ 自治会、各団体の行事内容を見直して、負担金を軽くする。
- ・ 高齢者は体力的に、若者は仕事で時間がなく、両者ともに役割負担が多いので、運営方法を考える。

今後の自治会運営についての問いでは、20歳以上の世代で「高齢者だけの世帯は役員の免除制度」を導入してほしいが高い割合であった。また、中学生以下～19歳まででは、「子ども会行事の「とんど」は自治会行事に」が高い割合であった。

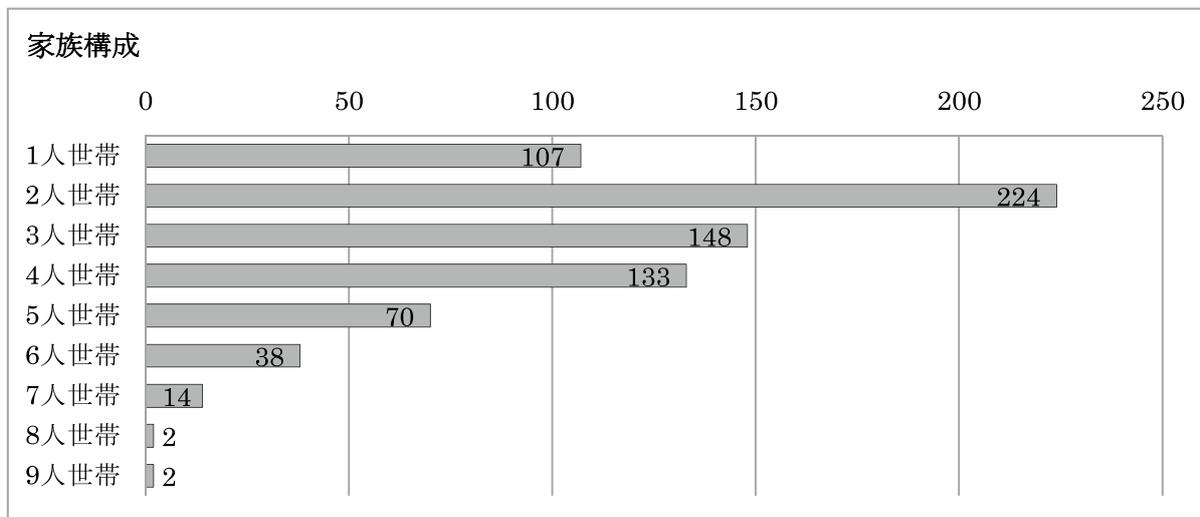
公共施設関係について

質問24 公共施設の設置 (記述意見の回答数77＝100%)



回答者の家族構成

質問25 あなたの家族構成（回答数1,029＝100%内291人回答なし）



その他

質問26 自由記述

- ① イズミの駐車場に入るとき（右折車）が多く危険で困っているのを改善してほしい。
- ② 慶応浜入口の信号機付き交差点で南北の道路幅が狭く車同士のすれ違いもままならず、危険である。関係行政へ働き掛けて改善してほしい。
- ③ 「水路の防護柵」および「用水路の蓋」の設置を要望する。
- ④ 次のような理由で行事を減らすことを検討ください。
 - ・ 子育て世代（中若年層）の役員負担が多くなった。
 - ・ 少子高齢化社会（人数減少）なので行事への参加が困難。
 - ・ 人材減少につき伝統芸能（神楽・胴鉦）は自治会連合会として取り組む時期となっている。
- ⑤ 町内会員の意見を出しやすい環境を作してほしい。（投函ポスト設置等）
- ⑥ 自治会の未加入・脱会者が多く課題となっている。
 - ・ 会費が他学区と比べ高すぎるので、すべての会費を下げて明朗な会計をすべきではないか？
 - ・ 防火支援金の用途は何ですか？
 - ・ 体協へ加入している事のメリットが感じられない。
 - ・ 近年、自治会の収支報告が周知されていない。その都度周知されるべきではないか？（会費、町民大会、文化祭、盆踊り大会等）
 - ・ 自治会に入らない原因を全体で真剣に考えるべきである。

資料編 2 計画策定の経緯

(1) 策定委員会日程

No.	年 月 日	会議名等	協議内容等
1	H26年 7月 1日	まちづくり推進委員会	まちづくり計画策定について研修会
2	H27年 4月 17日	まちづくり推進委員会	まちづくり計画策定について研修と、策定委員の決定
3	H27年 4月 24日	まちづくり計画策定委員会	他の学区が策定した資料の研修と柳津学区の課題について協議 策定小委員会の設置
4	H27年 7月 1日	策定小委員会	計画策定のための課題を集約するため事前アンケートの作成（8月末締め切り）
5	H27年 10月 1日	策定小委員会	アンケート結果の報告 アンケート調査項目の検討
6	H27年 10月 14日	事務局会議	アンケート項目の検討
7	H28年 2月 12日	策定小委員会	アンケート項目・調査票について
8	H28年 2月 19日	策定小委員会	アンケート項目・調査票
9	H28年 2月 23日	策定小委員会	アンケート項目・調査票の決定と日程について3月24日～27日で回収
10	H28年 2月 29日	策定小委員会	アンケート調査票作成と配布部数の決定（自治会・町内会加入世帯の1.7倍）
11	H28年 4月 25日	まちづくり計画策定委員会	役員改選により新メンバーの決定 取りまとめ方法の決定
12	H28年 5月 13日	策定小委員会	アンケート調査集計表の取扱と報告
13	H28年 5月 25日	策定小委員会	アンケート調査票より課題の抽出
14	H28年 6月 1日	策定小委員会	アンケート調査票より課題の抽出
15	H28年 6月 8日	策定小委員会	まちづくりの基本方針・具体策
16	H28年 6月 20日	策定小委員会	まちづくりの基本方針・具体策
17	H28年 7月 7日	策定小委員会	まちづくりの基本方針と具体的な施策項目別に取りまとめ（7月末）
18	H28年 9月 9日	策定小委員会	柳津学区まちづくり計画策定
19	H28年 10月 5日	策定小委員会	柳津学区まちづくり計画策定
20	H28年 10月 11日	事務局会議	文章の校正
21	H28年 10月 28日	まちづくり計画策定委員会	柳津学区まちづくり計画策定
22	H28年 11月 1日	事務局会議	柳津学区まちづくり計画最終校正

備考：事務局会議とは、自治会連合会と公民館長とで実施した。

(2) 策定委員名簿

柳津学区まちづくり推進委員会

柳津学区まちづくり計画策定委員会

A	B	所属団体	名前	A	B	所属団体	名前
○	○	自治会連合会	津田 光之		○	西 自治会	宍戸 健二
○	○	自治会連合会	山本 直隆		○	西 自治会	綿地 正範
○	○	自治会連合会	佐藤 正		○	公民館	高田佳奈弥
○	○	自治会連合会	佐藤 光晴		○	公民館	藤田かおる
○	○	自治会連合会	野島 正士		○	明るいまちづくり委員会	(兼) 津田 光之
○	○	自治会連合会	大村 満志		○	福祉を高める会	野島 英喜
○	○	自治会連合会	野島 益彰		○	民生・児童委員	吉岡 睦子
○	○	自治会連合会	大村 憲通		○	保育所	檜崎 幹恵
○	○	自治会連合会	大内 義治		○	中学校PTA	柳原 智美
○	○	自治会連合会	大村 純		○	体育会	檀上 隆根
○	○	自治会連合会	佐藤 崇		○	老人クラブ連合会	野島 啓司
○	○	自治会連合会	井上 貞明		○	交通安全協会柳津支部	(兼) 津田 光之
○	○	公民館	大村 茂穂		○	公衆衛生推進委員会	柳原 初
○	○	小学校	岡 裕基		○	消防後援会	(兼) 大村 憲通
○	○	小学校PTA	錦織 昌子		○	消防団柳津分団	野島 浩一
○	○	行政職員の会	橋本 光功		○	公民館運営委員会	麻生 博文
○	○	子ども会育成協議会	柳原 崇志		○	生活学校	(兼) 吉岡 睦子
○	○	青少年育成員協議会	山田 臣男		○	文化連盟	大村 忠士
	○	東 町内会	佐藤 貴士		○	防犯組合	山根 敏弘
	○	市場自治会	宍戸 泰倫		○	防火協会柳津支部	大村 正夫
	○	中 自治会	河口 裕正				
	○	灘 自治会	大村 直登				
			合計	18	38	合計人員には兼務者を含まない。	

備考 A欄の○印は、策定小委員会（計画策定委員会）の委員を示す。

B欄の○印は、まちづくり計画推進委員会の委員を示す。



柳津学区まちづくり推進委員会は
住み続けたいまちづくりをめざします

